鳥取県立厚生病院

すずかけ

第49号　平成30年6月18日

入退院支援センターを開設しました	1
厚生病院健康公開講座開催報告 3月4日（日）開催「消化器がん治療」	2
鳥取県ドクターヘリ運航開始	3
院内災害訓練	3
薬剤耐性（AMR）とは	4
テレビシステムを更新しました！	4
新人看護師職員研修	5
リハビリテーション室～土曜日も実施しています～	5
看護の日	5
キッズルームを整備しました	6
「すずかけ文庫」のご案内	6
新任部長からごあいさつ	6
新任医師紹介	7
次回健康公開講座のご案内	8
研修医の紹介・退職・異動者の紹介	8

入退院支援センターを開設しました

平成30年4月、地域連携センター内に入退院支援センターを開設しました。

入退院支援センターは、入院前から患者の皆さま・ご家族の方に関わることで安心して療養に専念していただけるよう支援します。

入院前に、入院に必要な手続きや入院生活の説明を丁寧にわかりやすく行うことで、より安心して入院していただけるように様々な疑問やご相談に対応します。

あわせて退院後の生活を見据えて、医療ソーシャルワーカーや看護師などの多職種の職員が地域の医療・介護福祉関係者と連携して退院に向けた支援も行います。

まずは、外科、消化器外科に入院予定の患者の皆さまから支援をはじめ、今後は他科の患者の皆さまも対象に、業務範囲を広げていく予定です。

どうぞよろしくお願いいたします。

地域連携センター長　船越　智美

健康公開講座開催報告

３月４日（日）開催　「消化器がん治療」

講演1「胃がんの治療」

医療局　西江浩副局長

胃がんは日本人を含めアジアの人々には発症しやすいがんです。罹患率は年々増加しています。

早期がんで発見されれば、胃カメラでの治療が可能なこともありますが、少し進んだ早期がんになると腹腔鏡手術、さらに進んだがんは開腹手術をすることになります。また、新しい薬による抗がん剤治療の効果も上がってきています。

しかしながら、残念なことに依然として手術ができないような状態でがんがみつかる方も少なくありません。しかも、40～50歳代の働き盛り世代の胃がんによる死亡率が高いのが現状です。

バランスの良い食事、適度な運動、規則正しい生活をしていても、胃がんを完全に予防することはできません。胃がんは検診で容易に発見できます。早期に発見すればより簡単な治療で治る可能性の高いがんです。

40歳を過ぎたら胃がん検診を受けましょう。

腹腔鏡手術とは

おなかのなかに気体（二酸化炭素）を満たして、腹腔鏡というカメラでのぞきながら、小さな穴から特殊な器具を入れてがんなどの病巣を切除する手術の方法のこと。

◆講演2「大腸がんの治療」

消化器外科　三宅孝典医長

大腸がんは増加傾向にありますが、比較的治りやすいがんともいわれ、全体の7～8割くらいの方は、治療をすれば5年生存率を得られると言われています。

進行の状態により内視鏡治療、腹腔鏡手術、化学療法などいろいろな治療方法があり、化学療法においては効果のある抗がん剤や分子標的剤の種類が増えてきており、予後が延びてきています。

しかしながら治療においては合併症や副作用などもありますので、主治医や専門家によくご相談ください。

分子標的剤とは

がん細胞のもつ特異的な性質を分子レベルでとらえ、効率よく作用するように作られた薬。がん細胞を狙い撃ちにするため、副作用をより少なく抑えながら治療効果を高めると期待されています。

◆講演3「膵がんの治療」

消化器外科　岩本明美医長

膵がんは難治性のがんとして知られています。基本的な治療は手術で病巣を取り去ることです。

しかし、膵がんは特異的な自覚症状がなく、どのような人が膵がんになりやすいのかもよくわかっておらず、早期膵がん（2センチ以下）は検査をしても見つけにくいため、早期発見が難しく、見つかった時には手術ができない人が約8割と言われています。また、手術ができても再発が多いのが特徴です。

膵がんの最適な治療法の選択には専門家の判断が必要です。治療を受けられる方の理想の治療とはどのようなものなのか、主治医とよく相談し、自らが納得いく治療を受けられることをお勧めします。

鳥取県ドクターヘリ運航開始

平成30年3月26日から鳥取県ドクターヘリの運航が開始されました。

鳥取大学医学部附属病院を基地とし、日中（原則午前8時30分から午後5時15分まで）に活動を行います。

救急現場から当院への患者搬送や、病院間搬送などが行われます。大学医師、看護師が同乗しており、迅速に患者に接触し、直ちに現場で救急治療を開始できます。

従来の防災ヘリの使用も維持され、中部地区の救急医療はより充実したものになります。

救急・集中治療室部長　浜崎　尚文

院内災害訓練

中部地震から1年の節目となる平成29年10月28日に院内災害訓練を行いました。

平成27年度の実働訓練で地震対応ルールは決定されていましたが、中部地震時の経験を踏まえ、幹部職員のみで暫定本部を作り、対応方針等を決定した後に、災害対策本部を設置するなど、いくつかの改善を行いました。

中部消防局と倉吉総合看護専門学校学生の協力で、47名の傷病者が約3時間の間に来院するという想定で訓練しました。

地震発生時の対応を職員が確認し実践することで、とても充実した訓練となりました。

今後も災害拠点病院としての役割を果たせるよう体制整備に努めていきます。

救急・集中治療室部長　浜崎　尚文

〔訓練の一場面〕

薬剤耐性（ＡＭＲ）とは

最近、抗生物質が効かない細菌が世界中で増えており、大きな社会問題となっています。このまま対策を講じない場合、2050年には薬剤耐性菌による死亡者数ががんの死亡者を上回ると予測するデータもあります。

日本では2016年にAMR発生を遅らせ、拡大を防ぐための取り組みが開始されました。

取り組みの一つに抗生物質を必要な疾患にのみ用い、適切な量と期間を守ることがあります。

例えば、風邪の原因の大半はウイルスであり、細菌を退治する抗生物質は効きません。

先生に「風邪なので抗生物質は必要ないですよ」と言われたら、それは最良の判断であると思ってください。

抗生物質が処方されたときは必ず量と期間を守って最後まで服用しましょう。

最も大切なことは感染症にかからないことです。日ごろから手洗いなどを行い、予防をしましょう。

薬剤部　安井　幸恵

薬剤耐性（AMR）とは

病原体が変化して抗生物質が効かなくなることをAMRといいます。

抗生物質の不適切な使用に伴って起こることがあります。

テレビシステムを更新しました！

平成30年4月、テレビシステム（床頭台テレビ、テレビ掲示板など）を更新しました。

床頭台テレビは台車を常時ロック式とし、常駐の保守員による年中無休（日中のみ）の清掃・不具合対応を行います。

あわせてテレビ、冷蔵庫などの利用料金を値下げし、イヤホンを提供するなど利便性の向上を図りました。

また、内科待合と小児科待合にテレビ掲示板を新設し、小児向けのテレビを放映して子どもたちが待ち時間を少しでも楽しく過ごせるように工夫したり、正面玄関ロビーに可動式のデジタル掲示板を設置し、休診情報の迅速な提供などを行っています。

今後もテレビシステムを活用して、いろいろな情報を提供していくこととしており、さらなる環境整備に努めていきます。

総務課　遠藤　晃

〔内科外来〕

〔中央待合〕

新人看護師職員研修

看護局は今年度、新しく12名の看護師を迎えました。

今年度から、研修の基盤であるクリニカルラダー（教育システム）を再構築して運用しています。クリニカルラダーは看護実践能力を養うことを研修の核とし、現場での実践を重視して

いますので、病院全体で新人育成をしていくことになります。

社会人として、また厚生病院の果たすべき役割を担う人材として大きく成長することに期待しながら、温かい見守りとご声援をよろしくお願いいたします。

看護局長　戸田　芳美

リハビリテーション室～土曜日も実施しています～

今年度、リハビリテーション室は3名の新人が加わり、総勢22名（理学療法士12名　作業療法士5名、言語聴覚士4名、医療助手1名）体制になりました。

昨年より土曜日のリハビリテーションの提供をスタートさせ、中部圏域を中心とした急性期の早期リハビリテーションの充実（リハビリテーション効果・患者サービス・早期回復・満足度などの向上）のために日々努力しています。

今後も患者の皆さまに満足していただけるリハビリテーションをめざし、スタッフ一丸となって取り組んでいきます。

リハビリテーション室長　松岡　哲史

看護の日

5月11日に病院玄関ロビーで「看護の心をみんなの心に」をテーマに看護の日のイベントを行いました。

今回は、「看護職のパネル展」「ハンドマッサージ」「体調不良時の食事等の紹介」「AED体験」「肩こり体操」を行いました。

多くの方にお立ち寄りいただき、特にハンドマッサージは大人気で待ち時間ができるほどでした。

少しでも患者の皆さまやご家族の方に役立つ内容、癒しの時間であったならうれしく思います。

看護局副看護局長　湯浅　良恵

キッズルームを整備しました

4階小児科病棟のキッズルーム(プレイルーム)がリニューアルしました。

症状が落ち着いて、医師の許可が出た子どもたちに利用していただいています。自由に遊んでもらうのはもちろんですが、少しでも気分転換ができるように絵本の読み聞かせや紙芝居も行っています。

床、壁紙、本棚が見違えるようにきれいになり、利用された子どもたちやご家族の方にも好評です。

今後も子どもたちが笑顔になれるような環境を提供していきたいと思います。

看護師長　山根　香里

「すずかけ文庫」のご案内

図書室前の通路に「すずかけ文庫」というコーナーがあります。

このコーナーは、主に利用者の方から寄贈された文庫本などを置いており、図書室閉室時にも利用できます。お一人5冊程度まで、病院内であれば自由にご利用いただけます。

診察の待ち時間など、どうぞお気軽にお立ち寄りください。

司書　山本　佳子

新任部長からごあいさつ

消化器外科　部長　　鈴木　一則

4月より厚生病院で勤務しております。

鳥取市出身で、卒後26年目になります。

専門は消化器外科であり、主に胃や腸の手術を行っています。

常勤医として中部地区で働くのは初めてですが、地域の皆様へ貢献できるよう努めますので、よろしくお願いいたします。

新任医師紹介

【平成30年４月１日採用】

消化器内科
加藤（かとう） 順（じゅん）（医長）

［ひとこと］
四月から厚生病院で勤務させていただくこととなりました。消化器内科医として肝臓疾患に特に力を入れて診療を行ってきました。中部地区には馴染みがありませんでしたが、地域医療に貢献できるよう頑張りたいと考えておりますので、どうぞよろしくお願いいたします。

消化器外科
安宅（あたか） 正幸（まさゆき）（医長）

［ひとこと］
この春、厚生病院に赴任して参りました。米子出身であり県西部、島根県での勤務が続き、初めての倉吉となります。公私ともにまだ戸惑うことが多く皆様にはご迷惑もお掛けしていますが、早く地域のお役に立てるように頑張って参ります。よろしくお願いいたします。

消化器内科
鳥飼（とりかい） 勇介（ゆうすけ）（専攻医）

［ひとこと］
この春から消化器内科医として勤務させていただきます鳥飼勇介と申します。内科および消化器内科の病気を中心に診療させていただきます。私自身も倉吉出身であり中部地区の医療に貢献できるよう頑張りますのでよろしくお願いいたします。

小児科
土江（つちえ） 宏和（ひろかず）（専攻医）

［ひとこと］
この四月から厚生病院で勤務させていただきます。境港の出身で、鳥取大学を卒業して医師四年目になります。中部地区の子どもたちが健康に育つためのお手伝いができますよう努力します。何卒よろしくお願いいたします。

臨床研修・教育センター
津田（つだ） 亜由美（あゆみ）

［ひとこと］
四月から勤務させていただいております。鳥取県立中央病院で初期臨床研修を修了し、卒後三年目になりました。出身は鳥取市で、倉吉市は初めてです。まだまだ未熟な身ですが地域の皆様のお役に立てるように頑張ります。よろしくお願いいたします。

臨床研修・教育センター
河村（かわむら） 実穂（みほ）

［ひとこと］
四月から厚生病院で研修をさせていただくこととなりました。一年と短い間ではありますが、病院スタッフや地域の方々から学ばせていただきたいと思っております。ご指導ご鞭撻のほど、よろしくお願いいたします。

研修医の紹介

（平成30年4月1日採用）

研修医 菅沼（すがぬま） 和弘（かずひろ）

［ひとこと］
この春自治医科大学を卒業し、四月より厚生病院で研修させていただきます。地元は鳥取市で、倉吉市は初めてです。中部地区の皆様のお役に立てるよう努めて参りますので、どうぞよろしくお願いいたします。

研修医 池田（いけだ） 衡平（こうへい）

［ひとこと］
四月から厚生病院で研修させていただきます。出身は岡山県真庭市蒜山で、島根大学を卒業しました。中部地区の皆様のお力になれるよう日々精進して参りたいと思います。まだ不慣れな点も多くありますがご指導ご鞭撻のほどよろしくお願いいたします。

研修医 福田（ふくだ） 裕康（ひろやす）

［ひとこと］
四月から厚生病院で研修させていただきます。出身地は岡山県津山市で、岐阜大学を卒業しました。ご縁あって、鳥取県の医療のお役に立てるよう研鑽してまいります。ご指導ご鞭撻のほどをよろしくお願い申し上げます。

次回健康公開講座のご案内

日　時：7月1日（日）
　　午後1時30分から午後4時
テーマ：胸部のがんの治療
会　場：倉吉交流プラザ（倉吉市立図書館の2F）
　　入場は無料です。

退職・異動者

医師

医療局長
秋藤　洋一（三月末付）

内科
小椋　実佳子（三月末付）

消化器内科
永原　天和（三月末付）

消化器内科
澤田　慎太郎（三月末付）

消化器外科
木島　寿久（三月末付）

消化器外科
宮谷　幸造（三月末付）

小児科
鈴木　将浩（三月末付）

産婦人科
宮本　圭輔（四月末付）

長期勤続退職者

看護局
松本　比登美（三月末付）
竹安　友子（三月末付）

栄養管理室
佐古　邦友（三月末付）
安田　奈緒美（三月末付）

お世話になりました

編集　鳥取県立厚生病院　広報委員会
発行　鳥取県立厚生病院
〒 682-0804　鳥取県倉吉市東昭和町150番地
電話　0858-22-8181(代)　ファクシミリ　0858-22-1350

厚生病院のホームページも、
ぜひご利用ください。
パソコン、スマートフォンから
ご覧いただけます。
http://www.pref.tottori.lg.jp/kouseibyouin/